

■学校経営のポイント

スタートの第一歩の確認

小島 宏

今、学校は厳しい状況にある。子供の教育環境の変化、教職員の校務の多忙化、学校への保護者や地域の厳しい声、いじめ・児童虐待、小1プロブレム・中1ギャップ、学級崩壊、UDやESDなど課題が山積している。年度のスタートに当たり、学校運営と教育活動の最初の一步を十分に確認したい。

学校経営方針の周知

校長の学校経営方針(学校経営案)を教職員に周知する。それに基づいて学校運営案(教頭)、学級経営案、教科経営案、保健室運営案、教育相談室運営案等を作成させ、見通しをもたせるようにする。

教職員の服務規律の確認

服務規律や不祥事については、印刷物(関係法規や教育委員会の通知など)を配布して指導する。特に、交通事故、体罰、猥褻行為、個人情報保護については事例をあげて具体的に指導する。

生命の危機管理

子供の命は山よりも高く、海よりも深く、地球よりも重い。通学路の危険(交通事故、不審者等)の把握と対応、食物アレルギーなど持病・急病・ケガへの対応、災害防止の指導・訓練、授業中(理科、水泳、実習、校外学習等)の事故、清掃・給食・休憩時の事故、施設・設備の点検・保守等一つ一つを確認し、教職員の共通理解と実施が必要である。

教職員の協働体制

学校は多忙化している。子供と向き合う時間と教材研究・準備に時間を確保するためには、他の校務の処理について、「チーム学校」として協働体制を確立し、ICT化を進め、効率化し、多忙さを軽減していく具体的な対策が必要である。

学級経営と授業の充実

年度当初に、基本的な生活習慣・校則、授業規律について確認する必要がある。小学校の低中高学年

の一貫指導、小中学校の一貫教育を考慮し、全教職員が「同じ内容」を「同じ方法」で指導すると効果的である。学級崩壊や授業崩壊の防止にも役立つ。

いじめ・不登校の指導や対応、思いやりや親切、協力の心を育てる指導においても、統一した方針と内容・方法の大枠を定めた上で、各事案に応じてきめ細かく指導すると成果が上がる。

全体計画・実施計画・指導計画

学校における道徳教育(体育・健康、総合的な学習の時間、特別活動、キャリア教育[進路指導]、生徒指導も)の全体計画、各種実施計画、各教科等の年間指導計画についても、昨年度の学校評価の結果を踏まえて見直す必要がある。期間を1週間と限定し、チーム学校として協働すると効果的である。

指導と学習のICT化

教師の教授用として、子供の学習用として、ICTを活用できるように整備し、できれば、年度当初にベテラン教員を講師に依頼して講習会を実施すると活用に弾みがつく。

学習評価と学校評価・教員評価

その時になって慌て、やむを得ず例年通りと言うことになるのが、学習評価(通知表、指導要録、今年度から道徳科の評価を意識する)と学校評価(自己評価、学校関係者評価)、教員評価(自己申告、授業観察と指導、人事考課)である。

校長は、それぞれのねらい、内容、計画、方法などを確認し、その上で、それを全教職員に事前に周知し、自覚を促すようにする。このことを受けて、校長や教頭を含め各担当者から予告し、準備し、実施し、その結果を次に生かすことができるようにしていくのである。

(こじま・ひろし＝一般財団法人教育調査研究所研究部長)

●全教職員が短時間で共有でき、ポイントが伝わる！

「A4・1枚」で学校を動かす 実例シート 82

【編集】渡辺秀貴 B5判・192頁／定価(本体 2,200円)＋税

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <http://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>をご利用ください。

